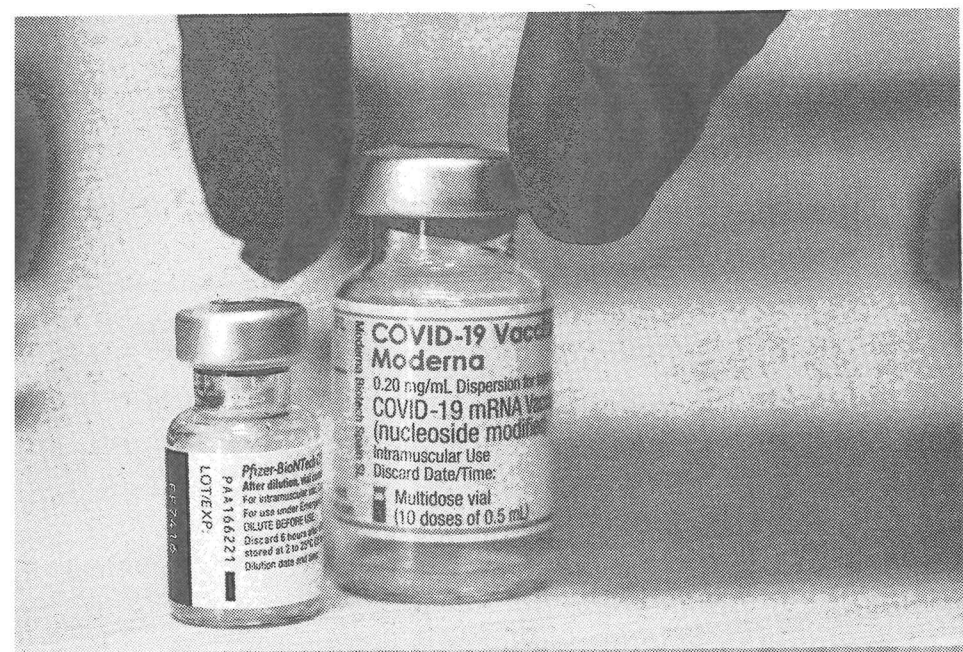


- 「気のせい」「甘え」「精神科へ」周囲の言葉に傷つく人たち
- 胸痛から呼吸困難、胃腸障害まで多岐にわたる症状
- 患者は圧倒的に女性が多い
- 補償は早くても1年後ほか

接種開始2年 ワクチン後遺症

ようやくわかった 「ワクチン死」の正体



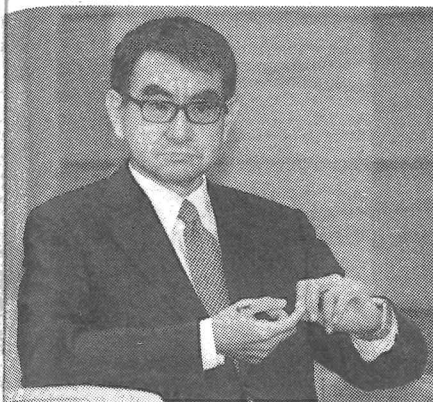
「集団免疫を得るために」「周りの人を感染させないように」――世のため人のためと銘打って大々的に接種がすすめられてきた新型コロナウイルスワクチン。しかし、開始から2年が経過しようとしている現在、さまざまな問題が噴出している。特に深刻なのは接種後に体調が悪化し、日常生活がままならなくなる「ワクチン後遺症」だ。国を挙げて推進してきたワクチンに伴う薬害は、なぜ黙殺されているのか。



「ひどい胸痛と高血圧が続いて耐えられずに救急車を呼んだこともありまし。重度の倦怠感で起き上がれないことも。接種から1か月後に首のリンパが腫れて40℃前後の高熱が9日間続いたときは、命の危険すら感じました」

そう話す40代のA子さんは、椅子に座る姿勢を保つのもつらそう。

自らを「令和の運び屋」と称し、接種を推進していた河野大臣。



A子さんが1回目のワクチンを打ったのは、新型コロナウイルスの第5波が収束した21年10月。集団接種会場でのことだった。感染が落ち着いているうちにワクチンを打ち、次の波に備えようと思ったのだ。

しかし接種から1分後、体に異変が起きる。

「急に手がしびれて、しばらくするとゴゴゴと咳が出始めました。おかしいな、とは思ったものの、その場ではそれ以上の症状が出ることはなく、家に帰りました。

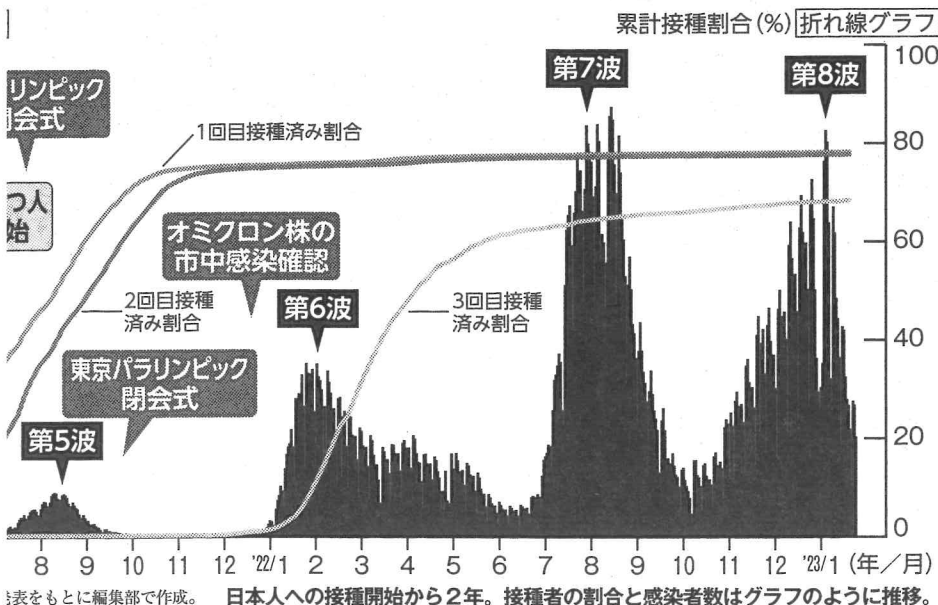
しかし、しばらくすると徐々に体の痛みやしびれが全身に広がり、喉がふさがって

後すぐに亡くなったケースがほとんど。しかし実際には、長い闘病の果てに命を落とす人もいるのだ。

前出の3人と同様に、接種

後に胸痛や倦怠感、呼吸苦、筋肉系の症状、頭痛、ブレインフォグなどを訴える人は少なくない。なぜ接種後にこうした症状が体に現れるのか。

ロナ「感染者数」と「ワクチン接種率」の推移



表をもとに編集部で作成。日本人への接種開始から2年。接種者の割合と感染者数はグラフのように推移。

いくのを感じました」（A子さん）

あの日から1年半近くたった現在も、A子さんはいまだに原因のわからない症状に苦しめられている。

「令和の運び屋」と言われるよう頑張りたい——

当時ワクチン担当大臣だった河野太郎氏はそう宣言し、国を挙げて新型コロナウイルス

洗濯物を干すだけ、ドライヤーを使うだけで息切れする

死すら頭をよぎるほどの急激な体調の悪化はワクチン接種が関係するのではないかと疑ったA子さんは県立病院を受診したが、医師の反応は冷たかった。

「接種直後の異変は接種によるアナフィラキシー（急激なアレルギー反応）とされたものの、翌日から出た症状はすべてワクチンとは無関係だと否定されました。血液、レントゲン、心電図、CTといろいろな検査しても異常が見つからない。心因性と診断されて精神科をすすめられたのです。接種5か月後からは膠原病科に通院しています」（A子さん）

その後も体調は完全には回復しなかった。現在、A子さんの症状はやや落ち着いているものの微熱や疲労感が毎日続き、関節の痛みや目と耳の不調に悩まされている。そのうえ、

の大規模接種を実施した。しかしその陰で、A子さんのように人知れず苦しみ続けてきた人がいる。

現在、新型コロナウイルスによる健康被害が出た人を救済する「予防接種健康被害救済制度」で認定が下り、補償を受けたのは5941件の申請のうち、1459件。そのうち20件が死亡事例だった。

時々地震のような揺れや真下に引っぱられるようなふらつきに襲われると明かす。

2回目の接種で体に異変が起きた人もいる。

30代のB美さんは21年8月に2回目接種を終えた1か月後、体調が急変した。

「2回目接種の2週間後から少し感じていた胸の痛みや息苦しさに加えて胃が働かなくなり、1日にスプーン1杯のおかゆしか食べられない日が続きました。

その結果、2週間ほどで体重が7kg減って、低血糖により歩くことができなくなりました」（B美さん）

猛烈な倦怠感にも襲われ、洗濯物を干したり、ドライヤーを使ったりするときに腕を3秒あげただけで、動悸や息切れがしてしゃがみこんだ。その姿を見た夫は「もう死

（23年1月23日時点。約8割近くがいまだ救済されないままであるうえ、さまざまな事情から申請ができないうちにもいる。今春、新型コロナウイルスを季節性インフルエンザと同等の「5類」に引き下げられることが検討され、コロナ禍から脱しつつある世の中をよそに、彼らを取りまく状況は依然として厳しい。

「何とかなければとネットで検索すると、『イベルメクチンが効く』との書き込みがありました。医学的根拠はなかったけれど、薬にもすがらないでイベルメクチンを輸入し、自己責任でのみしました」（B美さん）

服用後、症状は少しずつ治まり、現在では接種前と同程度の体調まで回復したという。

40代のC子さんは脳の不調に悩まされている。

「一昨年6月に2回目接種をしたのですが、打った当日から人生で感じたことがないほど体調が悪化しました。倦怠感とふるえと痛みがひどくて、1秒たりとも同じ姿勢でいられないんです。

とにかくつらくて、体の中で何か異変が起きていたよう

な感覚で、横になって眠るのもしんどくて一晩中うめき続けていました。

それが2日間続いた後、今度は集中力や注意力、記憶力が低下するようになり、霧がかかったように頭がぼんやりして相手が話している内容がわからないんです。本を読んでもまったく頭に入ることなくなる、いわゆるブレインフォグと呼ばれる症状でした」（C子さん）

極度の倦怠感で寝たきりになり、しばらく休息すると体力が回復するが、そのうちまた悪くなる。C子さんはこの繰り返しで現在に至る。

長く苦しんだ末に命を落とした人もいる。ワクチン後遺症の取材を続けるジャーナリストの鳥集さんが話す。

「取材した50代女性は接種後から呼吸苦を感じるようになったと繰り返し訴えていました。その女性は苦しい状況のなかでも、「もう動けないのに夫が優しく、娘が助けてくれる。ありがたいけど何もできないのが悲しい」とSNSに書き込んでいました。

ですが、ワクチン接種から数か月後、彼女の夫がSNSに「妻が亡くなりました」と投稿しているのを見つけた。亡くなったことを知ったときは、大きなショックを受けました」

「ワクチン死」としてこれまで報じられてきたのは、接種

コロナワクチン後遺症患者を多数診療している、ほんべつ循環器内科クリニックの藤沢明徳さんが解説する。

「ファイザーやモデルナの『mRNAワクチン』はウイルスのたんぱく質の遺伝子の一部を体内に注入し、新型コロナウイルスの表面に存在する突起状の『スパイクたんぱく』を体のあらゆる細胞に作らせます」

そのスパイクたんぱくを体内の免疫細胞が認識するとウイルスに対抗する抗体ができ、コロナの発症や重症化を防ぐという仕組みだ。

「しかしスパイクたんぱくは血管の内皮細胞を傷つけ血栓をできやすくし、血管障害を起こす弊害が指摘されています

また、抗体がスパイクたんぱくを作り、それを表出させた細胞を異物と認識して攻撃し、自己免疫性疾患が引き起こされる仕組みも説明されてきました。さらに細胞内のエネルギー産生工場であるミトコンドリアの機能不全も指摘されています。

それらの血管障害や免疫異常、ミトコンドリア機能不全によって胸痛や倦怠感といったさまざまな症状が体に現れてくると考えられます」（藤沢さん）

多くの専門家たちが口を揃えるのは、それらの症状が新型コロナウイルス後遺症と非常に似ているということです。

「両者ともに症状の原因は体内のスパイクたんぱくにある

と考えられるため、それが新型コロナウイルスに感染した際のウイルスが由来なのか、それともワクチンによるものなのかを判別しづらいのです。

私が懸念しているのは、ワクチンの実害から国民の目をそらすため、また医師の知識不足によってワクチン後遺症がコロナの後遺症として診断されることです。

確かに両者の見分けは難しいですが、オミクロン株が流行して重症化する人は少ないのに死者が増えることや、流行が収まった。感染の谷の時期でも死者が増えていることから、ワクチンの後遺症で健康被害が広まっている可能性も否定できないはず」（鳥集さん）

特筆すべきは後遺症に苦しむのは圧倒的に女性が多いということです。実際に後遺症患者がSNS上で412人を対象に行ったアンケート

「ワクチンのせいでこんな体調になった。元に戻してくれ」

「元に戻してくれ」

特に女性はそれらの栄養素が不足しやすいことがひとつの理由であると考えられます」（藤沢さん）

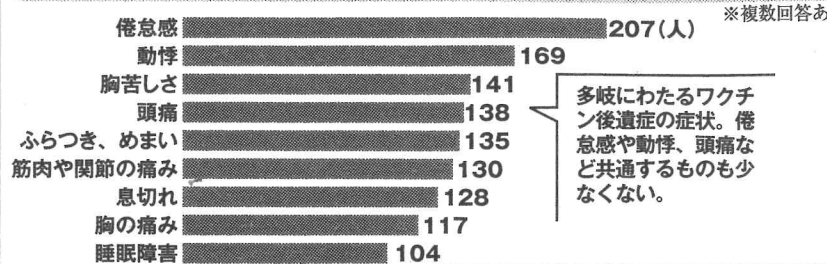
不正出血など、女性特有の病気が症状として表われてき

ています。

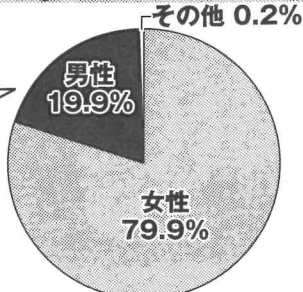
そもそも膠原病は免疫異常で、人口の1%ほどが罹患する難病ですが、昨年は入院ベッドの定員が常時オーバーしていたうえ、入院患者の中で

ワクチン後遺症に関するアンケート

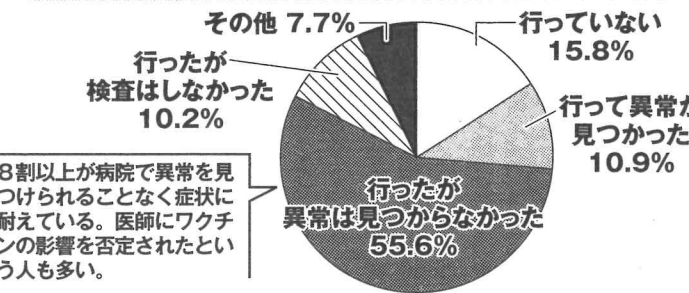
Q1.1回目、2回目の接種後に起こり、1週間以上続く症状は？ ※複数回答あり



Q2.性別は？



Q3.Q1の症状について医療機関にかかりましたか？ また検査で何か異常は見つかりましたか？



※2人以上から回答のあった症状を抽出。

数は減っているものの、21年9月から22年8月までの間に死亡した膠原病の患者数は、例年の2倍以上に激増しています」

進行した状態で見つかるのは膠原病だけではない。前出の医師が続ける。

「私が診療していたある膠原病の患者は接種直後から極端に体力が落ち、病状もみるみる悪化して入院しましたが、最終的に胃がんと判明して亡

くなりました。入院したときには胃がんが手で触れてわかるほど大きくなっていました。す。いままでにない、びっくりするほどのスピードでした。『おれは元氣だったのにワクチンでこんな体調になった。前の状態に戻してくれ』という病室での彼の訴えが耳に残っています。

知人の消化器外科の医師に話したところ『確かに接種後に進行した形で見つかるがん

が増えている」と話している。このワクチンは自己免疫疾患を新たに発症させるだけで

ワクチン後遺症患者を苦しめるのは症状そのものに留まらない。彼らが最初に直面するのは治療方法が確立されていないという現実だ。

「自分でワクチンを打っておいと」と医師に鼻で笑われ

「イベルメクチンの服用やグルタチオン点滴はスパイクたんぱくが体の細胞と結合することを妨げることによって悪さを防ぐのだら、また細胞レベルの機能障害の改善など、一定の効果が見込めるものの、効果が出ないという人もいて、処方してみなければわからない。

私の病院では薬に加えてビタミンCやビタミンD、亜鉛も処方していますが、手探りの状態です」(藤沢さん)

鳥集さんはワクチン後遺症を診察する医療機関が少ないことを指摘する。

「特に大病院や総合病院のほとんどは後遺症の症状そのものを認めていません。一通り検査して異常が見つからなければ、患者がどんなに体調が悪いと訴えてもその先の治療に進むことができない。現在の検査技術や知識ではわからないだけかもしれないのに、『病氣と診断できないから治療できない』と断じて患者を路頭に迷わせているのです」(鳥集さん)

C子さんの住む県にはコロナワクチンの指定専門医療機

関が11か所ある。しかし、C子さんが自治体に問い合わせても「専門医療機関はドクター向けのもの」と説明され、紹介してもらえなかったという。

「かかりつけ医から自治体に問い合わせてもらって、やっとその専門医療機関を受診するも『異常はない。ワクチン後遺症のことはわからない』と、ふたたびかかりつけ医に戻るよう言われました。たらい回しです。

次に自治体の相談窓口で紹介された病院を受診しても『検査で異常が見つからないから』とそこでも受け入れを拒否される。絶望的な気持ちになりました」(C子さん)

症状を認めないばかりか、患者に対して心ない言葉を投げかける医師もいる。

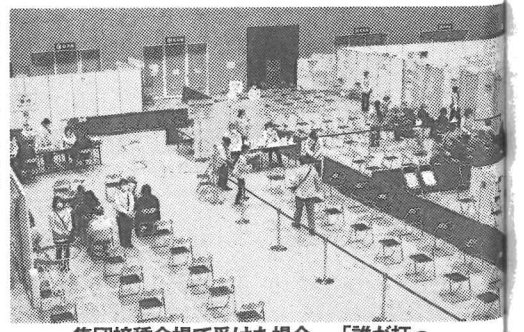
「いろいろ検査しても異常がなく、医師から『メンタルの薬しか出せない』と言われました。それどころか、ワクチン後遺症救済制度の話も切り出すと『自分でワクチンを打っておいと救済って何のつもり？』と医師に鼻で笑われてしまった。その場で言葉が詰

れ返済する必要があるのに、いまだに働けるめどは立ちません。私を含め、ワクチン後遺症の症状は長く続く人が多い。SNSでつながっている後遺症患者の中には『貯金が尽きた』と嘆く人もいます」(A子さん)

生活の困窮に拍車をかけるのは、高額な治療費だ。

「大病院で治療を受けられずに渡り歩いた挙げ句、高額な自由診療に走る患者もいるようです。医師や医学界がワクチン後遺症を認めないため患者が医療難民になり、後遺症ビジネスにからめとられる恐れがある。後遺症の治療費として、合計で100万円単位になる特殊な治療を行っているクリニックもあります」(鳥集さん)

健康な体や日常が奪われたうえに周囲から理解されずに苦しむ後遺症患者も少なくない。後遺症に苦しみ、手さぐりの状態でSNSを使って治療法を探したB美さんは、同じ悩みや苦しみに直面している患者のために、インターネッ上で情報収集や意見交換をする「新型コロナワクチン



集団接種会場で受けた場合、「誰が打ったか明確ではない」という理由で救済制度に申し込めなかった事例もある

まり、涙があふれました。それ以来、病院にはかかっていません」(B美さん)

なぜ、患者が懸命に苦境を訴えても対応してもらえないのか。前出の関東の総合病院の医師が指摘する。

「私たちのように個人で、何かおかしい」と思っている医師は少しずつ増えているものの、医療界全体はいまだに接種に疑問を持っていません。その大きな理由は、学会レベルでは接種後に腎炎や肝炎、膠原病などが発生したとの報告があっても大規模な統計はなく、現場感覚だけで異変に気づくのは難しいこと。

また、もともと見切り発車でワクチンを始め、打たない人は公衆衛生の敵」と接種を推奨してきたので、いまさら危険だと言えない雰囲気もあります。

そもそもワクチンに関心のある医師が少ないことも問題で、うちの病院のカルテに患者の接種歴が記載されているケースは皆無です。これではワクチンと症状の関連に思いが至りません」

本来、新しい病氣や症状は大病院などが主体となって臨床研究を進めるのが定石だが、現場の医師たちから見た現実には厳しい。

関東の大病院に勤務する内科医が内情を語る。

「大規模な臨床試験は患者を集めて説明し、治療や投薬をしてその結果をまとめるまでの工程でかなりの費用と労力がかかるため、製薬会社の資金提供によって成り立っているものがほとんどです。

医師個人で行おうとしても通常業務に加えて行うのは相当に厳しい。しかし製薬会社は、薬害や賠償金につながるかねない後遺症の研究には二の足を踏みます。そうした事情により、大病院ではワクチン後遺症患者への治療が難しいのが現状です」

「あなたはワクチンで助かった人のことを考えていない」

八方ふさがりの状況にさらに追い打ちをかけるのが、経済的な困窮だ。

夫婦共働きで暮らしていた前出のA子さんは接種後の体調不良で働けなくなり、家計

は瞬間に火の車となった。「最初は有給で仕事を休みましたが、体調の回復が見込めず、復帰が難しかったため結局退職せざるを得なかった。収入が減ったうえに医療費の負担が大きくなって首が回らなくなり、コロナ特例の緊急小口資金などで計80万円を

「あなたがワクチンで助かった人のことを考えていない。自分勝手なのよ!」

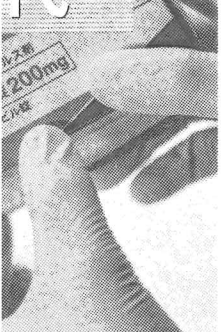
B美さんが静かに語る。「もちろんワクチン後遺症についてさまざまな意見があることや、打っても症状が出ない人がいることはわかっています。私は自分たちが被害を受けた事実を伝えたいだけ。にもかかわらず『反ワク』とカルト扱いされることもあります。しかも、間近で私が苦しんでいた様子を見ていたはずの家族に否定されるのはあ

信を行っていた。

しかしそれを見とがめた親族から、面と向かってこう言われてしまっ。

「あなたはワクチンで助かった人のことを考えていない。自分勝手なのよ!」

B美さんが静かに語る。「もちろんワクチン後遺症についてさまざまな意見があることや、打っても症状が出ない人がいることはわかっています。私は自分たちが被害を受けた事実を伝えたいだけ。にもかかわらず『反ワク』とカルト扱いされることもあります。しかも、間近で私が苦しんでいた様子を見ていたはずの家族に否定されるのはあ



急小口資金などで計80万円を



★発売は地域により異なります。内容は都合により変更することがあります。

24年連続! 圧倒的な面白さで
女性週刊誌部数No.1
女性セブン 次号予告
2月9日(木) 発売号も企画満載でお届けします!

今日からできる
中尾ミエ、由美かおる、小柳
ミ子、♥さゆりはこうしていた!
ご機嫌な私の
作り方!!

藤あや子、とよた真帆、田中
美奈子、「ミキ」聖生が登場!
「どこで出会えるの?」から
「私も保護活動してみたい」まで
保護犬
保護猫との暮らし方

カリスマヨガクリエイター・ayaさんが教えます
ぽっこりお腹を凹ます
最強メソッド

King & Prince
神宮寺勇太 感動の
最新
振り下ろし

KinKi Kids
緊急アンコール!

美容&健康を叶える大特集
美肌効果 貧血予防 骨力強化 風邪予防
疲労回復 免疫力up
女性のカラダに必須の
旬野菜に驚きバリエ!
小松菜の
大量消費45
栄養
最強

冬のオトナ旅完全ガイド
凍てつく湖のタイニミックな氷湖から
心と体を癒す温泉まで
名湯と美食の
白銀旅
しほり もくもく

※今号の懸賞、クイズ、プレゼント、投稿募集などの企画にご応募いただいた皆様のお名前、ご住所、ご連絡先等は、賞品や賞金、謝礼をお届けするため、またお届けに必要な情報の確認等のために利用し、その他の目的では利用しません。賞品からの引きや原稿、FAXは、抽選後直ちに、当選や採用された方のものは賞品や賞金、謝礼のお届け後、速やかに断裁いたします。また、投稿募集に関しては、採用させていただいたもの以外の引きや原稿、FAXも今後の掲載候補として、外部の目に触れないように編集部で厳重に保管させていただきます。セブンス・ドリル等については、今後の企画の参考にするため、アンケートへのご協力をお願いしております。ご回答いただいた内容は、個人情報等を除いて集計し、はがきは、集計後速やかに断裁いたします。以上、ご応募いただいたすべての引きや原稿、FAXは6か月を超えて保有することはできません。また、パソコンキータイからの応募の場合はサイト上の規約をご覧ください。

NEXT ISSUE

めていない事実がある。「後遺症を訴える人の多くは長期にわたって体調を崩し、経済的にも社会的にも追い込まれています。それでも国がワクチン後遺症を認めないから、医療界も問題解決に踏み出さない。」

経済的な困窮は、本来ならば接種後に困窮した人を救うための「予防接種健康被害救済制度」が機能すべきはずなのに、申請のハードルが高い。そのうえ、実際に救済されるまで数か月から1年を要するといわれている。時間がかかるといえる。どのくらいの割合の人の申請が受理されるのか不明です。

何より問題なのは接種開始時に国を挙げて「感染予防のため、周りのために打て」と推奨したのに、後遺症に見向きもしないこと。戦争に行けと言ったのに傷病兵を補償もせず、見放しているのと変わりません」(鳥集さん)

実際に本誌が取材した3人の後遺症患者のうち、申請が受理されたのは接種後すぐにアナフィラキシーの症状が出たA子さんだけだった。それも接種当日のアナフィラキシーの分のみに留まり、後に長く続く後遺症に対する補償は一切ない。

確かにコロナは、突然降ってわいた未曾有の「災害」であり、完璧な対処は不可能だっただろう。しかし、だから

こそ後遺症の症状が明るみに出つつあるいま、国を挙げた調査や補償を行うことが必要なのではないか。

自らもサリドマイド薬害の被害者で東京理科大学薬学部准教授の佐藤嗣道さんが語る。「大規模な追跡調査は難しい」という声もありますが、自治体には住民のワクチン接種記録があり、この記録と自治体が保有する国保の保険診療の請求書を突き合わせれば、接種歴と病歴との関係を調査できる。住民基本台帳や死亡届のデータと接種記録を突き合わせれば、接種と死亡の関係も追えます。ワクチン後遺症については、接種後に体調不良を訴えている人と担当医から速やかにヒアリングを行い、現状把握を急ぐべきです。サリドマイドなど過去の薬害では製薬会社による安全性軽視の販売姿勢があり、それを行政が漫然と見過ごしたという構図がありました。コロナワクチンについては国が国民に努力義務を課し、積極的に接種を推進しました。政府は自らの責任で進めた政策に伴って健康被害が起きている可能性を重視し、迅速に後遺症調査を進める責務があります」

後遺症の補償や調査に積極的でない一方で、国はワクチン接種を推進するために莫大な予算を費やしてきた。鳥集さんは、その恩恵を受けた医

療従事者の倫理を問う。「日給20万円近くにもなるワクチン接種のアルバイトで何百万円も儲けた医師がいます。しかし後遺症を訴える患者が救済制度を利用しようとしても、集団接種会場での医師が打ったかわからないとか、接種医が非協力的で申請にすら至らないケースがある。ワクチン接種は医療行為です。医師は私腹を肥やすだけでなく、接種した責任も、もつていただきたい」

海外では「ウォール・ストリート・ジャーナル」や「ニュー・イングリランド・ジャーナル・オブ・メディスン」といった欧米のメジャーな新聞医学雑誌でワクチンのリスクが論じられるようになり、英BBCでも「心疾患が増えたのはコロナワクチンが原因」という医師の声が流れた。他方、日本は世界で最も接種率が高く、接種回数が多い、ワクチン大国だ。

国内でコロナ感染者が初めて確認されてから3年が経過したいま、世の中すべてがコロナだけを恐れ、ワクチンの危険性を指摘する声や症状に苦しむ叫びを「非科学的なデマだ」と断じるのはあまりにも一方的ではないだろうか。

後遺症患者は「まずは症状があることを認めてほしい」と口々に話す。「反ワクチン」のレッテルでその声をかき消してはいけない。

文/池田道大 取材/戸田梨恵、伏見友里、三好洋輝

真子^{さん}帰ってき^ま 紀子^{さま}懇願の秘^ろ外交^ろト

取得カンタン度 × 稼げる度 **コスパ**がいい女性の資格 **29** ランキング 3位は日商簿記、2位は宅建、1位は…

松本潤³⁹グルメ舌はまるで家康 平野紫耀²⁶オーバースターは韓国で!

独占 愛子^{さま} 特別価格 460円 2月16日号

女 **袋麺** BEST 60 インスタント 袋麺 60 ガチ食べ比べ

関ジャニ∞ キャンジャニ∞ オリジナルライブピンナップ

御所で興奮 W杯戦士とブラボーな密会

鬼退治 スcoop 11連発

泉ピン子⁷⁵ 宣戦 石井ふく子⁹⁶を許さない

綾瀬はるか³⁷ 黒酢大根 女優の秘密 大谷翔平²⁸ WBCに暗雲 保険金問題

山下智久³⁷ ゴードブルーコンビで極秘ロケ撮 清原和博⁵⁵ 元妻と挑 次男の甲子園

志村けん⁵⁷ 全焼した旅館へ果たした約束 長瀬智也⁴⁴ 新バンド 長瀬智也新バンド 長瀬智也新バンド 長瀬智也新バンド

橋田壽賀子⁹⁶ 遺作ドラマからピン子が消えた



カラー特集 名家・旧家の上品な暮らし

X JAPAN Toshiが叫んだ完全決別 YOSHIKI攻撃ソング 全真相

鼻炎薬のみすぎ! その花粉症対策が あなたの心と体を壊す

認知症にならない生活 9割は自分で治せます! 3人に1人が悩んでいる 冬の痔がつかず

血管おそうじ スープ25 50代から 知っておきたい 腫と子宮の 家庭の医学

中谷美紀、田中みな実も あの芸能人、失敗に学ぶ 超 不倫のバレ方 全の取り方

接種開始2年ようやく ワクチン死の正体 後遺症

閉経後は要注意 必読 松本伊代⁶¹は再入院 「骨折ドミノ」で 寝たまわりの恐怖